

学生サークル形成事業プレスリリース別紙

サークル名「TSUNAGU」について

本事業で展開するサークルは、その背景や理念を反映して「TSUNAGU」と学生によって名付けられました。タイポグラフィを扇型にしたデザインのロゴは、見る人に橋や出島を想起させ、サブタイトルでサークルの理念の理解を補足しています。また、温かな色を配することで、自然と人が集う大地や太陽をイメージしています。今後、サークルに参加する学生の名刺、ウェブサイトなどに汎用します。



サークル活動を支える組織とメンター

本事業は、企画段階からサークルのコアメンバーとなる学生と意見交換を行い、企画を造成しています。また、メンターやアドバイザーとして、起業経験者や投資家、大学での教育指導を経験したメンバーを加え、学生の自律的な運営を支えます。また、学生の活動拠点を「HafH Fukuoka THE LIFE(福岡市)」とし、同代表の大瀬良亮氏を顧問として迎えることで、学生の活動をサポートします。

「取組事項例」

壱岐の島 SDGs 体験プログラム

人口減少や高齢化など、地方自治体が抱える課題が顕著な離島である壱岐市は、「社会的課題解決」と「経済発展」の両立を掲げ、内閣府の自治体 SDGs モデル都市「SDGs 未来都市・壱岐市」として選ばれています。本事業では、福岡に至近である同市に滞在するツアーを企画することで、参加学生に長崎の豊かな自然・文化・人々の生活を体感する機会と同時に、地域課題を考える機会を作ります。島の魅力を知覚するフィールドワークの他、島の人材開発を担う「壱岐なみらい研究所」との意見交換、島の課題解決を行うマーケティング講座などを開催します。

県内企業と学生の交流機会の創出

本事業では、県内企業が学生のアイデアや行動力、世界観を知る機会を、イベントを通して創出します。福岡や首都圏で学生の間で盛り上がりを見せるピッチバトルの開催や、学生に人気なアントレプレナーやスピーカーを招いた「働く」をテーマにしたセッション・ライブ配信などを行います。また、同イベントの開催地を長崎市郊外のリゾート施設とし、広く告知を行うことで、大学生の保護者世代を含む一般の方への理解や周知、参加をはかります。

「事業の背景」

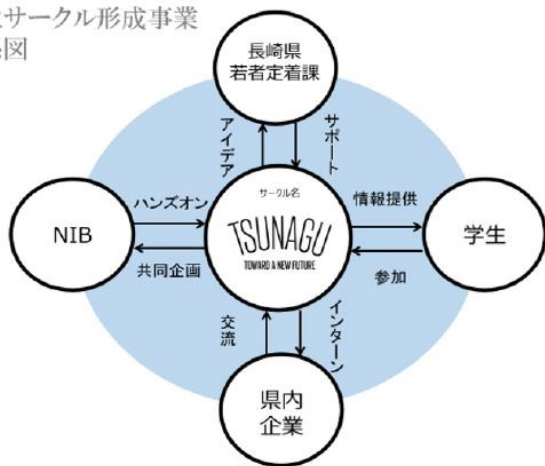
大都市圏への人口流出

全国的に地方から大都市圏への人口流出が進む中、長崎県でも転出超過が続いています。その多くが若者の進学や就職によるもので、県では若者定着課を中心に、県外進学者への地元就職促進などの取り組みを行っています。

福岡県の大学生へのアプローチ

令和元年度学校基本調査によると、本県では5,525人の高校卒業者が大学に進学しており、うち3,527人（63.8%）が県外の大学に進学しています。中でも福岡県の大学に在籍する割合は多く、県外大学進学者の約3人に1人にあたる1,134人（32.2%）が進学しています。本業務では、それらの学生を対象に、新たな方法で、長崎で働くことの価値や意義を発信していきます。

学生サークル形成事業
関係図



事業スキーム

